

## 第2章 試験研究の基本方向

本県における農業試験研究は、農業施策の展開を技術開発という側面から強力に支援、かつ提案していくという重要な役割を有している。そこで、「第3次沖縄県農林水産業振興計画」の推進目標を達成するため、農産物の生産性・品質の向上、流通・加工、担い手育成及び農業農村の持続的発展等において、本所、名護支所、宮古島支所、石垣支所が重点的に取り組む方策を明らかにし、地域や行政等のニーズを適切に踏まえた試験研究に取り組む。

### 1 国際化、産地間競争に対応した戦略的な研究開発の推進

国内外の産地間競争の激化に対応するため、施設園芸における省力・低コスト栽培技術の開発と、果樹等の永年作物の高品質安定生産技術の開発を行う。また、消費者の多様なニーズに対応するため新品種の育成等を行うとともに、おきなわブランドの確立に向けた研究を重点的に行う。また、地域資源の活用や地域特産物の導入、加工による特産品開発に向けた品質管理、加工技術、流通システムの開発等に取り組む。

### 2 安全・安心・健康志向や環境保全等に配慮した研究開発の推進

食の安全・安心を確保するため、食の生産から消費に至るまでの総合的な対策を講ずる必要があることから、「沖縄県食の安全・安心確保基本方針」（平成17年度策定）に基づき、消費者の健康保護を基本理念とした農業技術開発に努める。また、消費者ニーズや健康への関心の高まりに対応し、環境と調和した農業生産と消費者基点の農業を推進するため、機能性食品の研究開発、バイオマス利活用に向けた有機質資材の循環利用技術の開発、生物的・物理的・耕種的防除法を組み合わせた病虫害防除や環境に配慮した土壌生産力の増強等、環境保全型農業技術の開発に取り組む。

### 3 農作物の流通・加工技術に関する研究開発の推進

本県は、亜熱帯に属していることから多様で独特な特性を兼ね備えた農作物が数多く存在する。そのため、これらの素材をいかした加工技術の開発は、大きな可能性を秘めている。農作物の加工においては、農作物の食品素材の理化学

的特性と流通、加工用途別の適正の解明、微生物・酵素利用による未・低利用資源の食品素材化、有用物質の加工利用、規格外農作物の有効利用等の技術の高度化を図る。

#### 4 機械・施設等の農業生産システムと経営技術の研究推進

本県は、台風、干ばつの常襲地帯であるとともに国頭マージ、島尻マージ、ジャーガル等多様な土壌が分布するため、それぞれの土壌条件及び栽培規模に応じた農業機械の開発や耐候性の低コスト施設の開発に取り組む。

農業の生産技術は、各種分野の技術が体系的に組みあわされており、生産環境や市場流通等様々な社会的条件などが相互に影響し合い、農業経営や生産力に大きく反映していることから、生産性及び収益性の向上を図るため、生産から市場までを一環として捉えた経営技術の研究開発に取り組む。

#### 5 高度先端技術に関する研究開発の推進

試験研究の高度化・効率化と新たな産業の創出、農産物の安定供給を図るためには、バイオテクノロジーを活用した農作物の優良品種の育成、ITを活用した作物生育・品質管理技術、施設栽培における環境制御システム等の研究開発に取り組む。

#### 6 知的財産権の保護と活用の推進

産地間競争や国際化にうち勝つには、本県にとって独自性の高い品種育成や栽培技術の開発が必要であり、その権利を保護することは県民の利益のために重要である。このため、試験研究によって得られた成果については、必要に応じて速やかに特許や品種登録等の知的財産としての権利化に取り組む。また、取得した権利については、その保護に努めるとともに一層の活用を推進する。